放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和8年3月31日

事業所名：　スペシャル・ニーズ・サポートカレッジ

対象職員：10名　　回収数：10名　　回収率：100%

		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	3	0	活動プログラムによって、机の移動等で安全に配慮	
	2	職員の配置数は適切である	8	2	0		今後も適切な職員の配置を行っていくように努めていきます
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	7	1	トイレ入り口に段差があるが必要に応じてスタッフを配置	現在は介助を必要とする利用者がいませんが、今後必要に応じてスタッフが対応していきます
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	5	0		令和8年4月より、運営システムHUGを取り入れ業務改善を行います。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	1	0		実施したアンケートを確認し、現状を把握した上で対応を行っていきます
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	1	0		ホームページにて公開をしています
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	6	1	外部からの来訪者や見学者様を積極的に受け入れ、ご意見をいただいています	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	0	0	スタッフへの研修案内を研修担当が作成し啓発しています。	更に、スタッフが研修を受ける機会と時間確保に努めてまいります。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9	1	0	スタッフで支援会議を行い多方面からの意見を取り入れて作成をしています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	2	0	標準化されたアセスメントツールではなく、保護者様からの聞き取りやスタッフの行動観察によってアセスメントを作成しています。	利用者のデジタルスキルの「見える化」を構築中です。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	0	0	利用者に必要なプログラムをチームで検討しています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	1	0	利用者に必要なプログラムをチームで検討しています。	今後もSSTや調理レク、外出レク、PCを用いてモノづくり等、多様な活動を行っています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9	1	0	個別活動の時間を設けることで利用者様が自己の課題に取り組めるようにしています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	10	0	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	0	0		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	0	0	送迎の関係上、支援終了後に行うことが困難であるため翌日のミーティングにて行っています	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	0	0	毎朝、前日の日報の読み合わせを行っています。	来年度の運営システムの導入で、より正確な記録が残せるようにします。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10	0	0	定期のモニタリングだけでなく、必要に応じて支援内容の見直しや検討をチームで行っています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	9	1	0	子どもの将来に向け、最善の利益を第一に考えて支援を行っています。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	2	0	サービス担当者会議には管理者または児童発達管理責任者が参加していますが、フタッフに意見を聞き結果の共通理解も行っています	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5	5	0	下校時間等、学校や保護者から連絡が来ていないこともある為、その都度確認を行っています。	今後も、利用者本人や保護者からの情報をもとに学校と連絡調整を行っていきます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	5	0		現在、対象のお子様はおりませんが、必要時には対応を行います
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	7	0		今後は保護者の同意のもと、必要に応じて訪問や電話等での情報共有を行っていきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	4	0	相談支援事業所と連携し、必要な情報を提供しています。	今後は、必要に応じて卒業後の様子をお伺いするなど、よりスムーズに移行できるよう支援していきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	4	0	研修の情報は、スタッフに共有しています。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	3	6	訪問等が難しい為、他事業所とオンライン交流を行っています。	今後は、長期休みを利用して、児童館等で交流できる機会を増やしていきます。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	0	3	7	役員ををを通して情報を共有しています	今後は、積極的に参加できるよう業務の改善を図っていきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	3	0	必要な際は送迎時、ご利用日には連絡帳にて日々の情報共有を行っています	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	3	7	0		今後は、ペアレントトレーニングができるスタッフの育成に努めてまいります。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	0	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	0	0	その都度、お子様の課題に応じて助言等を行っています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	1	0	毎年一回、保護者会を開催し交流の場を設けています。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10	0	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10	0	0	カレッジ通信だけでなくHPブログにて情報公開を行っています	
	35	個人情報に十分注意している	10	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	4	2		今後は、交流の機会がもてるよう検討していきます。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	2	0		保護者へ周知していただけるようホームページ等でお伝えしていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	1	0	本年度は、12月に不審者訓練を行い、警察署の方に改善点の指導をいただきました。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	1	0	定期的に研修を行い、虐待防止委員会を設置し報告をしています	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	10	0	0	障がい特性に応じて検討を行い、必要に応じて説明や個別支援計画に記載を行うようにしています	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9	1	0	安全なおやつを持参いただきなどして保護者とその都度共有を行っている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	2	0	ヒヤリハットについて記録化を行い、周知しています	